

インフォメーション・コーナー

会 告

- 平成 21 年度全国優秀技術発表会の開催について (第 2 報) ㊦78
- 学会誌掲載報文等による通信教育の参加者募集!!78
- 「農業農村工学会学術基金」の募金について79
- 農業農村工学会災害対応調査団専門別調査団員登録についてのお願い79
- 身近にある水利遺構で表紙を飾ろう!!
「水土の知 (農業農村工学会誌)」平成 23 年秋季～冬季の表紙写真の募集80
- 「水土の知 (農業農村工学会誌)」への投稿お待ちしております!80
- 国際学会「国際水田・水環境工学会」入会のお願いと国際ジャーナル
「Paddy and Water Environment」について82
- 国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと
2009 年 1 月から 2011 年 12 月までの編集事務局 (投稿先) のお知らせ82
- 水土文化研究部会第 7 回研究会の開催について ㊦83
農業農村工学会論文集第 265 号内容紹介84
- 学会記事86

農業農村工学会行事の計画

農業農村工学会行事について、下表のように計画しています。奮って参加下さるよう、お待ちしております。

㊦のマークは、技術者継続教育認定プログラムとして認定されたもの、および認定申請中のものを表しています。

開催日	主催	行事名	テーマ	開催場所	掲載号
平成 22 年 2 月 18, 19 日	京都支部	平成 21 年度地方講習会・支部研修会	㊦ 土地改良事業計画設計基準・設計「パイプライン」の解説ほか	金沢市	77 巻 10, 12 号 78 巻 1 号
平成 22 年 2 月 19 日	行事企画委員会	平成 21 年度全国優秀技術発表会	㊦	東京都	77 巻 12 号 78 巻 1, 2 号
平成 22 年 2 月 26 日	水土文化研究部会	第 7 回研究会	㊦ 水土文化を景観から読み解いていく視点と景観形成に水土文化資源を活用する技術	東京都	78 巻 2 号
平成 22 年 3 月 5 日	材料施工研究部会	第 47 回シンポジウム	㊦ 農業水利施設の補修・補強対策の現状と今後の展望	東京都	77 巻 11, 12 号
平成 22 年 8 月 31 日～9 月 3 日	大会運営委員会	平成 22 年度農業農村工学会大会講演会	㊦	神戸市	77 巻 12 号 78 巻 1 号

第 78 巻第 3 号予定

展望：野生鳥獣被害対策に向けて：梶 光一

小特集：鳥獣被害の防止策とその効果

- ①中山間地振興施策連携による集落全体のイノシシ防護柵整備：川口 裕ほか
- ②青森県におけるサル食害防止柵の効果：細川吉晴
- ③鳥獣被害に対する「山間集落」と「大規模事業地区」のそれぞれの対策：谷本和宏ほか
- ④効果的な獣害対策のための農地管理および基盤条件の検証：武山絵美ほか
- ⑤「統合的な野生動物管理システム」の構築：弘重 穰

技術リポート

北海道支部：エゾホトケドジョウを中心とした魚類の生息環境に配慮した排水路整備：遠藤拓也ほか

東北支部：農業用ため池ハザードマップ作成と住民との協働：石井公人ほか

関東支部：環境に配慮した頭首工補修工法：井上 健

京都支部：揚水機場管理のための携帯電話による遠隔監視装置：法戸正登

中国四国支部：ドライバーの視点に立った農道における案内標識の整備：田中 悟ほか

九州支部：地盤改良工法による集水池の整備—北大東村幕内地区の事例—：大野純也ほか

小講座：(古代から今日に至る)鳥獣被害の歴史：仲谷 淳

私のビジョン：中桐貴生

平成 21 年度全国優秀技術発表会の開催について (第 2 報)

行事企画委員会

技術者継続教育プログラム認定申請中



平成 21 年度全国優秀技術発表会を下記のとおり企画しました。本発表会は、平成 19 年度まで中央講習会として実施してきたものを名称変更しました。

本年度の各支部大会報告の中から、特に評価が高く、全国的なモデルになり得る地域の新たな取り組みについて、各支部より発表いただくこととしております。ぜひご参加下さい。

1. 主催 農業農村工学会行事企画委員会
2. 期日 平成 22 年 2 月 19 日 (金) 10:00~17:10
3. 場所 農業土木会館 6 階会議室
4. プログラム (予定)
 - 司会 青木 一郎 (行事企画委員会委員)
 - 10:00~10:10 開会挨拶
行事企画委員会委員長 元杉 昭男
 - 10:10~10:40 講演-1 関東支部(1)
「トンネル改修工事の事例報告」
関東農政局中信平二期農業水利事業所 奈良坂裕輔
 - 10:40~11:10 講演-2 関東支部(2)
「酸性土壌区域における区画整理工事」
千葉県千葉農林振興センター 内山 安広
 - 11:10~11:40 講演-3 京都支部(1)
「大口径パイプラインの現場実証試験とそのデータ解析」
北陸農政局九頭竜川下流農業水利事業所 川島 秀樹
 - 11:40~12:10 講演-4 京都支部(2)
「GIS を用いたアカガエル類の産卵適地に関する生息ポテンシャル評価」
福井県農業試験場 上野 秀治
 - 昼食(50 分間) —
 - 13:00~13:30 講演-5 中国四国支部(1)
「農業土木遺産としての段畑の構造と保全について
—重要文化的景観 宇和島市「遊子水荷浦の段畑」—」
愛媛県南予地方局農村整備課 関谷 頼石
 - 13:30~14:00 講演-6 中国四国支部(2)
「表面被覆工法が開水路の長期耐久性に及ぼす効果に関する調査検討～施工後 13 年を経過したエポキシ樹脂塗装

のコンクリートの中性化及びアルカリ骨材反応抑制効果
～」 (株)チェリーコンサルタント 本條 忠應

14:00~14:30 講演-7 東北支部(1)

「地域力を活用した魚道整備事業への取り組み」

青森県上北地域県民局地域農林水産部 松橋 和久

14:30~15:00 講演-8 東北支部(2)

「SPR 工法によるパイプラインの改修事例」

東北農政局馬淵川沿岸農業水利事業所 寒河江陽二

—休憩(10 分) —

15:10~15:40 講演-9 九州支部(1)

「既設アンカー工を考慮した対策工の検討について」

長崎県島原振興局農林水産部 田崎 裕悟

15:40~16:10 講演-10 九州支部(2)

「GIS を活用した赤土等流出予測評価システムについて」

アジアプランニング(株) 高木 克己

16:10~16:40 講演-11 北海道支部

「機械インピーダンス法による表層劣化水路コンクリートの強度推定」
北見工業大学技術部 岡田 包儀

16:40~17:00 意見交換

(発表者と会場参加者による意見交換)

17:00~17:10 閉会挨拶 農業農村工学会

5. 参加費 一般 4,000 円
会員 2,000 円
学生 1,000 円

6. 申込期日 平成 22 年 2 月 15 日 (月)

7. 申込・問合せ先

お申し込みは学会ホームページ (<http://www.jsidre.or.jp/>), 各種行事の参加申込書に必要事項をご記入のうえ、下記に FAX またはメールでお送り下さい。

〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4

(社) 農業農村工学会 行事企画委員会

☎03-3436-3418 FAX 03-3435-8494

E-mail: iwasaki@jsidre.or.jp 担当: 菊辻, 宇津木

学会誌掲載報文等による通信教育の参加者募集!!

行事企画委員会

技術者継続教育機構通信教育部会

学会誌を出典とした通信教育を平成 18 年 11 月より本格実施しております。学会誌購読による自己学習で最大年間 10 CPD ポイント、また、通信教育で最大年間 24 CPD ポイントが取得できますので、是非、通信教育にご参加下さい。

なお、本号に掲載された通信教育問題から配点を改正 (正解

率 70% 以上の場合 1.0 CPD ポイントから 1.5 CPD ポイントへ、正解率 100% の場合 1.5 CPD ポイントから 2.0 CPD ポイントへ) いたします。詳細については、第 53 回通信教育問題 (本号誌 65 ページ) をご参照下さい。

1. 参加会員の募集

参加をご希望の正・学生会員で、かつ CPD 会員の方は、農業農村工学会のホームページ (<http://www.jsidre.or.jp>) にある参加申込書に必要事項を記載してメール (E-mail: cpd@cpd.jsidre.or.jp) あるいは FAX(03-5777-2099)でお送り下さい。

なお、この機会に農業農村工学会、継続教育機構への入会を希望される方は、同様にホームページ (<http://www.jsidre.or.jp>, <http://www.jsidre.or.jp/cpd>) に申込様式がありますので、ご記入の上お申し込み下さい。

2. 申込期限

参加は、いつからでも可能です。

3. 内容

問題は3カ月前の学会誌の報文等から、機構通信教育部会

が作成し掲載します。

問題は択一式で、毎回10問出題します。報文の事実的内容から作成し、回答はメールで機構に送信していただきます。

採点の結果、7割以上正解で1.5CPDポイント、満点で2.0CPDポイントが取得でき、CPD会員の継続教育記録に自動的に登録されます。

解答は技術者倫理に則り、自らの責任において作成していただきます。

4. 参加費

学会会員のための行事の一環として実施するため、学会が必要経費を負担しますので、当分の間、通信教育参加費は無料です。

「農業農村工学会学術基金」の募金について

農業農村工学会は、農業農村工学の学術・技術の発展を通じて、わが国農業の近代化に大きく貢献できたものと自負しています。しかし、昨今の日本の農業はかつてない厳しい環境におかれ、農業農村工学の役割も従来に増して一層重要なものとなり、東南アジアをはじめとして全世界的な展開が望まれる状況になっています。

そのためには、若い世代の育成、新たな技術の開発や国際交流の進展が図られなければなりません。学会は、これら諸活動に資するものとして、平成3年4月に学術基金を創設し、これに上野賞基金や富士岡研究奨励基金を統合し、さらに法人・個人有志からの拠出金等をもってこの基金に充てることとしております。

つきましては、会員各位からの多くのご支援をいただきたく、お願い申し上げます。

なお、この学術基金による助成は、平成21年度までに54件の実績をあげています。

個人会員一口 5,000円 (何口でも可)

法人会員一口 50,000円 (何口でも可)

送金方法 銀行振込および郵便振替でお願いいたします。

銀行：みずほ銀行新橋支店

普通預金 No.1569058

口座名 (社) 農業農村工学会学術基金

郵便振替：00140-2-54031

加入者名 農業農村工学会学術基金

農業農村工学会災害対応調査団専門別調査団員登録についてのお願い

災害対応特別委員会

農業農村工学会では、近年における地震、豪雨等による災害が各地に発生し、農地・農業用施設等に甚大な被害をもたらしている状況に鑑み、それら災害の原因究明、復旧対策工法の採用等に対する支援を行う組織として、災害対応特別委員会を設置しています。

この災害対応特別委員会では、「①農地・農業用施設に甚大な被害が発生した自然災害」、「②学術の見地から緊急調査が必要と判断される自然災害」に対して、災害発生後、直ちに災害対応調査団を派遣し、調査の実施、復旧支援を行う体制を整備しています。

そこで、災害対応調査団を組織しなければならない事態が生じた時に、早急に対応できるよう、調査団のメンバーを希望される方は事前に登録の申請をお願いします。審査の結果、登録された会員は、災害対応調査団候補者名簿(2年ごと更新)に記載して、緊急災害等の場合に現地調査を行って頂きます。

なお、災害対応調査団の団員の資格および派遣の条件は、以

下のとおりです。

- ① 調査団の候補者は、高度な専門知識を有する農業農村工学会員とする。
- ② 派遣する調査団員は、候補者名簿の中から選定する。
- ③ 調査団の派遣期間は、原則2～3日とする。
- ④ 調査団派遣に関わる旅費は、農業農村工学会が後日精算する(年度予算限度額300万円)。
- ⑤ 調査団員に対して、調査に必要と考えられる保険を掛ける。
- ⑥ 調査団は、調査結果を速やかに報告する。

上記の趣旨をご理解のうえ、学会事務局 FAX 03-3435-8494、E-mail saigai@jsidre.or.jp までお申し込み下さい。様式は農業農村工学会ホームページ (<http://www.jsidre.or.jp>) よりダウンロードして下さい。多数の応募をお待ちしております。

なお、登録頂いた個人情報、災害対応調査にのみ活用し、適切に取り扱います。

身近にある水利遺構で表紙を飾ろう!! 「水土の知（農業農村工学会誌）」平成23年秋季～冬季の表紙写真の募集

学会誌編集委員会では、平成23年も引き続いて皆さまからの写真で表紙を飾ることとします。

趣 旨

わが国は急峻な地形であることや水田稲作が発達したことに起因して、水を制する、水を利用するための土木的施設が数多く造られてきました。それら用水路、頭首工、堰堤などの水利施設は、今も過酷な自然の猛威にさらされながらも、農業経営、防災などの面で人々の生活を支えています。また、それぞれの機能を発揮するとともに、年月を重ねることでの地域の自然や文化にとけ込み、その景観を構成する要素として不可欠なものもあります。それが大規模プロジェクトで建設されたものでなくとも、私たちが調査・研究・事業の対象としている農村地域には、規模に違いこそあれ立派に機能美と景観美を放つものが存在します。

農業・農村の現場で活躍される皆さま、日頃何気なく見過ごしているかもしれない水利遺構とそれを含む景観の美しさを再評価いただき、忙しい業務の合間にも、足を止め、手を休めて写真として記録いただき、広く学会員にご紹介下さい。特に今回は、「秋」、「冬」が感じられる「水利遺構」の写真を集めます。

記

1. テーマ

「水利遺構：先人たちの技術と苦勞が垣間見える造形美」
(昨年と同様)

2. 対象巻号

学会誌第79巻(平成23年1～12月号)のうち、特に秋季～冬季のもの

3. 写真の種類

単写真、組写真いずれもカラープリントで(デジタルカメラの場合はJPEG ファインモードまたはTIFF モードに設定)撮影して下さい(サイズは六ツ切)。組写真の場合は、その旨明記して下さい。

4. 枚数

応募写真に制限はありませんが、未発表のものに限ります。

5. 締切

平成22年3月31日(秋季～冬季の写真)

6. 審査

審査委員会(編集委員と写真家)で選考します。

7. 結果発表

学会誌第79巻第1号で採用作品と掲載号を発表し、採用作品は平成23年度大会会場でパネル展示します。

8. 謝礼

採用作品には規定の賞金(1点につき3万円)をお支払いします。また、応募者には記念品をお送りします。

9. 「Cover History (表紙写真由来)」について

採用作品の応募者には学会誌掲載の「Cover History (表紙写真由来)」をご執筆頂きます。ご執筆の詳細は、採用決定時に応募者に直接お知らせします。なお、些少ですが原稿料をお支払いします。

10. 使用权

採用作品の使用权は(社)農業農村工学会に属します。

11. 注意点

応募された被写体の季節が極端に偏ることから、募集する季節ごとに締切を設けさせていただきました。

審査は上記の趣旨を十分理解されている写真であるか、表紙写真の質として耐えうるかということを重視します。具体的には、水利構造物の形状や機能が、その写真から十分に読みとれること(花などの情緒物に埋没しないこと)、また、デジタル画像の場合は表紙に拡大したときにドット崩れしない十分な解像度があること、が採用の条件となります。

12. 応募方法および応募先

学会ホームページより、応募票をダウンロードし、タイトル、郵便番号、住所、氏名、年齢、職業、電話番号、性別、写真のテーマ、撮影場所、撮影年月日、撮影データ(フィルム、使用カメラ等)、対象物の固有名称(固有名詞)、対象物をめぐる歴史的背景等の説明を記入し、応募写真の裏面に貼付してお送り下さい。

なお、原則として、応募写真は返却しません。

〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4

(社)農業農村工学会

農業農村工学会誌編集委員会「表紙写真公募」係

☎03-3436-3418 FAX 03-3435-8494

E-mail: suido@jsidre.or.jp

「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております！

学会誌編集委員会

自主投稿原稿の募集

小特集以外の自主投稿も歓迎いたします。投稿の際には、農業農村工学会ホームページに掲載の「農業農村工学会誌投稿要

項」、「農業農村工学会誌原稿執筆の手引き」を熟読の上、ご投稿下さい。

学会誌 78, 79 巻の小特集のテーマ

小 特 集 テ ー マ	要 旨 締 切 (A4判 1,500字以内)	原 稿 締 切 (刷上り 4ページ厳守)
78 巻 3 号 鳥獣被害の防止策とその効果	公募終了	
4 号 バイブラインの再生技術 (仮)	公募終了	
5 号 農用地整備による地域の振興 (仮)	公募せず	
6 号 大会関連	公募せず	
7 号 田園地域・里地里山の保全と生物多様性 (仮)	公募終了	平成 22 年 3 月 10 日
8 号 農業農村工学分野における再生可能エネルギーの利用技術 (仮)	平成 22 年 2 月 25 日	平成 22 年 4 月 12 日
9 号 広域的な防災・減災技術とリスク管理による災害に強い農村づくり (仮)	平成 22 年 3 月 25 日	平成 22 年 5 月 10 日
10 号 農業農村整備を契機とした農村環境の保全 (仮)	平成 22 年 4 月 25 日	平成 22 年 6 月 10 日
11 号 営農コスト削減に資する低コスト圃場整備の取組み (仮)	平成 22 年 5 月 25 日	平成 22 年 7 月 12 日
12 号 地域貢献とフィールド研究 (仮)	平成 22 年 6 月 25 日	平成 22 年 8 月 12 日
79 巻 1 号 次世代育成 (仮)	平成 22 年 7 月 26 日	平成 22 年 9 月 10 日
2 号 ため池と農業農村工学 (仮)	平成 22 年 8 月 25 日	平成 22 年 10 月 12 日

今後取り上げてほしい小特集のテーマについても、広く募集しておりますので、学会誌編集委員会あてにお寄せ下さい。なお、小特集テーマが仮題となっているものは、予告なく変更することがございます。

採用された原稿の分量は、刷上り 4 ページとなっておりますので、ご執筆の際には厳守いただきますよう、お願いいたします。

送付先 〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4
(社) 農業農村工学会 学会誌編集委員会あて
☎03-3436-3418 FAX 03-3435-8494
E-mail : henshu@jsidre.or.jp

78 巻 8 号テーマ「農村工学分野における再生可能エネルギーの利用技術」(仮)

わが国は 2020 年までに温室効果ガス排出量を 1990 年比で 25% 削減する目標を表明した。

農業は温室効果ガスを排出する一方で、農山村においては既存の農業インフラである水利施設や遊休地などにおいて、小水力や太陽光、風力などによる発電、ヒートポンプや地下蓄熱、雪氷利用による省エネなどの多様な取組みによる温室効果ガス削減策を実行できる可能性を秘めている。

現在の農山村での生活、農業施設や水利システム、営農作業は、化石エネルギーに依存しているところが大きい。今後の低炭素社会の実現に向けて農山村は、最も再生可能エネルギーの恩恵を享受できる可能性のある場所であり、かつ積極的に取り

組むべき場所でもある。

近年、再生可能エネルギーの利用技術は、実証的に検討が行われている段階であると思われるが、それぞれの取組みの技術的な特徴や達成度、課題を把握することが必要である。さらに、これら再生可能エネルギーの実用に向けては、現行制度の問題点の解消や導入に向けた支援策などの充実も不可欠である。

そこで本特集では、農業農村工学分野における多様な再生可能エネルギーの利用促進に向けて、すでに小特集に取り上げたバイオマス関連を除く新たな技術の開発や実証の取組み、再生可能エネルギーの導入に向けた課題などについて報文を公募する。

78 巻 9 号テーマ「広域的な防災・減災技術とリスク管理による災害に強い農村づくり」(仮)

近年は、地震や集中豪雨による洪水・土石流、地すべりなどの農村社会に被害をもたらす災害が頻発し、広域的な災害リスク管理の必要性が増している。今後のさらなる地球温暖化による気候変動が、これらの災害被害を増大させる懸念もあり、これまで以上に広域的な視点での防災や減災の技術とリスク管理が求められる。

農業農村工学は農村社会や住民生活に密接した分野であり、広域的な災害リスク管理においても、災害の被災予測やハザードマップ等の情報管理から、総合的な防災・減災技術や復旧支援まで多様な面で重要な役割が期待されている。

さらに近年は農村社会において、過疎化、混住化などの住民構成の変化、ため池下流部や低平地への宅地の拡大など社会構造の変化に伴い、農村地域特有の新たな防災課題も生まれている。また、減災に向けた農用地の総合治水利用など、新たな取組みも見られはじめ、その際のハード面、ソフト面での課題も次第に明らかになってきている。

本特集では、多様な災害に強いこれからの農村づくりのために、近年の新たな課題をふまえた広域防災および地域防災に関する技術開発や取組みについて広く公募する。

国際学会「国際水田・水環境工学会」入会のお願いと 国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」について

国際水田・水環境工学会 (International Society of Paddy and Water Environment Engineering : PAWEES) は、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を創刊し、2010年3月末に Vol.8, No.1 が発刊される予定です。

本ジャーナルは、モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関する研究論文、技術論文が多数掲載されますので、研究者のみならず、各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。たくさんの方々が国際学会へ入会されることを希望します。

掲載論文の分野は、次のように幅広い内容となっています。

- ① 灌漑 (水配分管理, 水収支, 灌漑施設, 栽培管理)
- ② 排水 (排水管理, 排水施設)
- ③ 土壌保全 (土壌改良, 土壌物理)
- ④ 水資源保全 (水源開発, 水文)
- ⑤ 水田の多面的機能 (洪水調節, 地下水涵養など)
- ⑥ 生態系の保全 (水生, 陸生動物植物の生態系)
- ⑦ 地域計画 (農村計画, 土地利用計画など)
- ⑧ バイオ環境システム (水田農業と水環境, 土壌環境, 気

象環境)

- ⑨ 水田の多目的利用 (田畑転換, 施設園芸)
 - ⑩ 農業政策 (農村振興, 条件不利地の支援策など)
- 水田農業を通じた国際的な研究交流, 情報交換の場として, 皆様の国際学会への入会をお勧めします。

国際学会に入会されますと, 会員には国際ジャーナルが, 年4回無料で配布されます。

出版社: Springer-Verlag 社 (ドイツ)

発刊スケジュール: 2003年3月創刊, 以後3カ月ごと

国際学会会費: 正会員 12,000 円/年/4 冊 (送料等学会負担)

学生会員 (院生含む) 8,500 円/年/4 冊 (送料等学会負担)

申込先: 農業農村工学会編集出版部 馬目あて

ホームページ: <http://www.jsidre.or.jp>

※入会のお申込は, 学会ホームページ (<http://www.jsidre.or.jp/publ/ij/scope.htm>) の「5. APPLICATION FORM FOR THE REGULAR MEMBER」にご記入のうえ, メールまたは FAX でお申し込みいただけます。

国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 2009年1月から2011年12月までの編集事務局 (投稿先) のお知らせ

国際水田・水環境工学会 (International Society of Paddy and Water Environment Engineering) は、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を創刊し、2010年3月末に Vol.8, No.1 が発刊される予定です。

わが国においても学術誌の評価に、SCI (Science Citation Index) の IF (Impact Factor) が利用されており、本国際ジャーナルでも IF の取得により高い評価の定着を目指してきました。

また、世界13カ国から Editor (14名) を選出することにより、国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし、さらに国際的な流通を考慮して、国際出版社として著名な Springer-Verlag 社からの刊行です。

掲載論文は、Review, Article, Technical Report および Short Communication の4種類です。

投稿から掲載までの時間を短縮するとともに、年4回の発行としております。投稿者は国際学会員に限りませんが、**投稿料、掲載料などを無料**として投稿者の負担を軽くするように配慮されています。

このような努力が実り、2009年12月、本ジャーナルがトムソン・ロイター社の SCIE に収録され、インパクトファクター

を獲得したというビックニュースが飛び込んできました。詳細については Editor-in-Chief による海外ニュースが本誌1月号88ページに掲載されていますのでご参照下さい。

2009年1月から2011年12月までの編集事務局 (投稿先) は、台湾になります。

投稿先: Yu-Pin Lin, Ph. D., Professor

Department of Bioenvironmental Systems Engineering National Taiwan University

No. 1, Sec. 4, Roosevelt Road, Taipei, 10617 Taiwan (R. O. C.)

E-mail: yplin@ntu.edu.tw

TEL: +8862-2-3366-3467

FAX: +8862-2-2363-5854

(During Jan. 2009 to Dec. 2011)

編集方針: 水田農業における土地と水と環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としている。

その分野は、水田農業地帯における灌漑と排水, 土壌保全, 土地資源や水資源の保全と管理, 水田の多面的機能, 農業政策, 地域計画, バイオ環境システム, 生態系の保全, 水田保全, 田畑輪換等 である。

編集体制

- Editor-in-Chief : Dr. Yoshisuke Nakano (Japan)
Professor Emeritus, Kyushu University, Japan
- Editors 13 カ国から 14 名
- Editing Board 32 名
- Managing Editors
Chief Managing Editor : Prof. Dr. Yu-Pin LIN
Department of Bioenvironmental Systems Engineering, National Taiwan University, Taipei, Taiwan, Rep. of China
- Dr. Katsuyuki SHINOGI
National Institute for Rural Engineering, Tsukuba, Japan

- Prof. Dr. Haruhiko HORINO
Graduate School of Life and Environmental Sciences, Osaka Prefecture University, Osaka, Japan
- Dr. Kazunari FUKUMURA
Department of Agricultural Environmental Engineering, Utsunomiya University, Utsunomiya, Japan
- Prof. Dr. Soon-Jin HWANG
Department of Environmental Science, Konkuk University, Seoul, Korea

出版社 : Springer-Verlag 社 (ドイツ)

投稿資格 : 筆者全員が国際学会員であること。

投稿要領等 : <http://www.jsidre.or.jp> に詳細を記載しています。

水土文化研究部会第7回研究会の開催について

技術者継続教育プログラム認定申請中



水土文化を学び識ることは農業農村整備事業に携わる技術者の感性を研磨する。とりわけ農村景観を読み解く力を育てる。それは景観に配慮した農業農村整備技術の基礎となる。

農村景観には水土文化が刻み込まれており、水土文化は私たちの前に景観として立ち現れている。農村景観を読み解くことは、その中に存している水土文化を見いだしていくことでもある。

今回の研究会では水土文化を景観から読み解いていく視点と景観形成に水土文化資源を活用する技術について研修する。

1. 日 時 平成 22 年 2 月 26 日 (金) 13 時～16 時
2. 場 所 農業土木会館 6 階 第 2・3 会議室
〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4
☎03-3434-5961

3. プログラム

講演

「水土文化が凝集された歴史的デザインコード」(仮題)

宇都宮大学名誉教授 藤本 信義

「産業遺産としての炭坑」(仮題)

専修大学北海道短期大学教授 小林 昭裕

「農村風景の中の水利用」(仮題)

(独) 農研機構農村工学研究所主任研究員 重岡 徹

4. 参加料 無料

5. 参加申込および連絡方法

〒305-8609 茨城県つくば市観音台 2-1-6

(独) 農業・食品産業技術総合研究機構 農村工学研究所
施設資源部 首席研究室 (担当 後藤真宏)

☎029-838-7591 FAX 029-838-7609

E-mail : griese@affrc.go.jp

6. 参加申込要領

整理の都合上、2月19日(金)までに以下の要領にてお申し込み下さい。

氏 名 _____ (CPD 番号 _____)

所属機関 _____

所在地 _____

電話番号 _____

FAX 番号 _____

* 部会員以外の方も参加できます。

* (社) 土地改良建設協会研修会と連携行事を行っています。